

OECD「質の高いインフラ投資に関するシンポジウム」

中西哲外務大臣政務官 開会演説

グリア事務総長、ご列席の皆様、

日本の外務大臣政務官の中西哲です。本日のシンポジウムへの皆様のご参加を歓迎します。

10月29日に「質の高いインフラ投資に関するグッド・プラクティス集」がOECD閣僚理事会において、歓迎されました。グッド・プラクティス集の完成をお祝いするとともに、本イベントの開催に尽力されたOECD事務局に感謝申し上げます。

私は10月6日のOECD開発センター理事会第6回ハイレベル会合に出席し、コロナ禍からの持続可能で強靱な回復のためには質の高いインフラ投資を途上国において実施することの重要性を訴え、多くの国から賛同を得ました。本日のシンポジウムはこれまでの議論を具体化するものであり、時宜を得たものと考えます。

本日のシンポジウムには、ドナー国、パートナー国、国際機関、アカデミアから様々な方々が参加しています。皆様から、なぜ質の高いインフラが途上国にとって重要なのか、途上国が直面する問題に対してグッド・プラクティス集がどのように貢献できるのかについて、多角的な視点から議論されることを期待しています。

コロナは、「人間の安全保障に対する危機」です。とりわけ途上国は、以前から存在していた脆弱性のため、一層深刻な打撃を受けました。

途上国がコロナから復興し、脆弱性を克服し、中長期的な発展を実現する際に重要なのが、開放性、透明性、経済性、債務持続可能性といった質の高いインフラ原則の実践です。初期費用が安くとも、自然災害に対して脆く、地域全体における環境、雇用、技術移転を考慮しない質の低いインフラは、実際にはライフサイクル全体で見た経済効率性に欠け、強靱なサプライ・チェーンの構築や中長期的な成長を阻害しかねません。また、インフラの調達透明で公正かつオープンな方法によって行われ、債務計画が返済可能なものでなければ、自らの復興や成長を阻害するものとなり得ます。

我が国はこうした考えから、2019年のG20大阪サミットで「質の高いインフラ投資に関するG20原則」の策定を主導しました。この原則が途上国で実践されることで、自律的な経済発展が実現し、地域の連結性が強化されることを期待します。

質の高いインフラの実践にあたっては、政策決定者や実務家がその具体的な方法を熟知することが必要です。グッド・プラクティス集は、G20原則にある要素に資金調達の観点も追加し、インフラ投資の事業を実施する際に考慮すべき点を包括的にまとめています。関係者の皆様にはご一読頂き、今後の事業の実践にあたり活用頂くよう望みます。

さらに、現在OECDは、質の高いインフラ原則の実施に関するケース・スタディをまとめた「質の高いインフラ投資のための実践ハンドブック」を作成中と承知しています。グッド・プラクティス集を補完する文書として早期の完成を期待します。

質の高いインフラの実施については、これらの成果物を踏まえ、本日参加されているような様々なステークホルダーの間で議論を続けていくことが重要です。OECDがこの分野で引き続き貢献することを期待します。我が国としても、OECDと協力しながら国際社会がコロナ禍から「より良い復興」を果たしていくために積極的な役割を果たしていく決意です。

ご清聴ありがとうございました。

(了)